

特集

# 偉人がつなぐ未来

児玉郡保木野村（現在の本市児玉町保木野）に270年前に生まれた塙保己一。遠い過去のことかもしれませんが、しかし、塙保己一が遺したものは確実に現代に息づいています。今回の特集では、塙保己一という存在が、未来につないだもの、現代のわれわれへと遺したものを探ります。

障害を越える情熱

幼いころから本が好きで、読んでもらった本の内容はすべて記憶して忘れませんでした。そんな塙保己一は、7歳のときに病気で失明してしまいました。当時、目の見えない人の多くが、按摩やはりの仕事に就くなか、塙保己一は、その優れた記憶力と情熱で、学問への道へと進んでいきます。

後のための偉業

学問をしたい後世の人の役に立ちたい。その熱き想いと優れた記憶力で、41年という長い歳月を掛けて「群書類従」を完成させました。群書類従は、散逸する文献をまとめたもので、後世の人々が文献を探すうえで大きな役割を果たしています。その収録文献数は1277種、25部門、666冊からなります。盲目であった塙保己一がこの偉業を成し遂げられたのは、並外れた努力と、協力したいとたくさんの人が集まる塙保己一の人柄にあったことがわかります。

## 偉人の名と情熱を受け継ぐ学校

埼玉県川越市。ここに特別支援学校があります。埼玉県立特別支援学校塙保己一学園（県立盲学校）。0歳児からの相談受付をはじめ、視覚に障害のある3歳児から大人までの113人の生徒が学んでいます。

特別支援学校塙保己一学園（県立盲学校）



これは、公立盲学校で全国一の生徒数です。「同じ気持ちを持つ多くの仲間と夢や悩みを共有できる」と佐野貴仁校長先生は言います。そこには、塙保己一の名に負けない生徒たちが夢に向かって情熱を燃やしています。「二人ひとりの長所を伸ばしてあげたい。また、才能のある生徒をもっと世の中に出してあげたい」と佐野校長先生。また、「この学園のことを知らない人がまだ多くいる。塙保己一の存在と一緒に広まってほしい。塙保己一は人と人をつなぐ架け橋になる」と、その存在が現代でも多くの影響を与え続けていると佐野校長先生は言います。塙保己一は約200年前の偉人。しかし、その情熱は現代の学生たちの中で確実に生き続けています。



金子 和也くん  
高等部普通科2年

り、楽しいところ」。その難しさゆえ、6月には鼻の骨を折ってしまった。しかし、「視覚を完全に奪われたコート内で、声を掛け合うとチームでやってるんだという実感が沸く」とうれしそうに話す。「今はとにかく東京パラリンピックに出ることが目標。開催国としてでなく、しっかりと予選を勝って出場する。そしてメダルを取りたい」。その言葉は力強く、金子くんの眼差しの先には、4年後のメダルがはっきりと見えていた。

高等部から塙保己一学園に通う金子くん。中学校まで野球をしていたが、ボールが見えなくなり競技を断念。そんなときに、母が連れて行ってくれたパラリンピック発掘事業。そこで、はじめてゴールボールを体験。それが運命的な出会いとなり、どんどんその魅力にのめり込んでいく。競技を始めて2年足らず、今では、日本代表選手になったのだ。チームでは最年少。「声を掛け合いコミュニケーションをとることが難しいところであ



佐野 優人くん  
高等部普通科1年

金子くんと同じ高等部から塙保己一学園に入った佐野くん。「学校に入り、同じ悩みを持つた皆さんの友達ができた。本当に毎日が楽しい」と笑顔で話す。佐野くんも金子くん同様ゴールボール選手。日本代表の育成選手として代表メンバー入りを目指している。現在所属する国立障害者リハビリステーションセンターのチームでは、女子ゴールボールをロンドンパラリンピックで金メダルに導いた江黒直樹監督のもと練習に励んでい

る。また、佐野くんはゴールボールだけでなく、陸上競技でもその才能を発揮している。100・200m走では、全国大会出場を決めている。「東京パラリンピックのその先も視野に入れている。将来はゴールボールと陸上競技、両方でパラリンピックに出場したい。そのために今は、学校生活や私生活の中で、先生や監督に言われたことをしっかりやっていきたい」と話す佐野くん。大きな目標に向け、今を確実に一歩ずつ歩んでいる。



秋元 美宙さん  
中学部2年

自分の体験をもっと多くの人に伝えたい。目が見えないことは、かわいそうなことではないんだと。パラリンピックは夢の通過点。より多くの人に、多くのことを伝えるための経験のひとつなのだ。秋元さんは、10月に行われた全国盲学校弁論大会で、関東甲信越代表として出場し、優秀賞を受賞した。「今は陸上の全国大会に向けて、練習を頑張ります」と笑顔で話すその言葉の先には、秋元さんが向かう大きな未来がはっきりと感じられた。

幼稚園から塙保己一学園に通っている秋元さん。「昔は走ることは嫌いだった。でも、東京パラリンピックに出たい」。その思いと先輩や先生からの誘いもあり、中学部から陸上をはじめた。「走るフォームを見たことがないので、走り方を覚えるのが大変」と話す。努力を重ね、今では50m音響走と200m走で全国大会に出場するほどになった。将来の夢は何かという質問に秋元さんは力強くこう答えた。「全国を講演して回って、

## 年表

Chronology

西暦	歳	
1746	1	5月5日、保木野村の百姓、荻野宇兵衛ときよの長男として生まれる。名は寅之助
1752	7	病気で失明。辰之助と改名
1760	15	江戸に出て、雨富検校の門人になる。名を千弥と改名
1761	16	修行が思いどおりにいかず自殺を考えたが、雨富検校に学問の道に入ることを許され、国学や和歌を学ぶ
1763	18	衆分の位になり、故郷からとつて名を保木野一とする
1775	30	勾当になる。雨富検校の本姓である「塙」をもらい、塙保己一と名乗る
1779	34	群書類従の出版を決意
1783	38	検校に昇進
1789	44	水戸徳川家に招かれ、「大日本史」の校正に加わる
1793	48	日本で最初の国学専門機関「和学講談所」を設立
1819	74	41年をかけ全666冊からなる「群書類従」を完成
1821	76	総検校になる。9月12日死去